

直撃!

業界最前線 リポート

「あの業界」「この分野」における人材ビジネス関連の「今」を探る

取材・執筆
伊藤秀範

第1回 業界キーマンに聞く! 看護業界の人材動向とそのニーズ



- キーポイント① 「病院看護師」はバブルになる?
- キーポイント② 「病院看護」から「訪問看護」への移行
- キーポイント③ 看護師ニーズはデパート型から専門店型へ
- キーポイント④ 高まる看護師の「キャリア教育」の必要性
- キーポイント⑤ 看護学校教員の人材紹介の現状と課題
- キーポイント⑥ 「外国人看護師」は日本で定着するのか?
- キーポイント⑦ 眠っている看護人材活用への打開策は?

求人ニーズの高い医療・看護分野。だが、業界最前線の現場を直撃すると、意外に知られていない現状、そして課題も見えてくる。「看護業界の最前線リポート」の1回目、2回目では、業界キーマンへの取材から主に7つのキーポイントを探つてみたい。今回はその中の4ポイントに焦点を当てる。

とっても他人事ではない。

「紹介できる看護師が足りない」。医療系人材会社のコンサルタントの間では、いまだそうした声は根強いが、最近では「看護師バブル」という言葉もにわかに意識され始めているようだ。

その背景にあるのは厚労省が昨年発表した診療報酬改定における「看護職員数の配置基準の変更」つまり、社会保障費の抑制を念頭に置いた、病院にとっては高額入院料の算定メリットのある「7対1病床」の大幅削減、そして「在宅医療の拡充」への方針転換である。診療報酬改定は原則2年に一度行われるが、医療業界内では「来年の改定は相当厳しい内容になる」と受け止められており、その動向に関しては病院に看護師の人材紹介をしている人材会社に

話、看護師の頭数をそろえることで診療報酬の拡大につなげられる面もあり、多少、技術不足のある看護師であっても、目をつぶつて採用していたところはあったと思われます。

しかし、今後は7対1病床の削減で病院内の看護師は14万人余るという報告データもあり、病院看護師に関しては、採用の人材要件は今よりもかなり厳しくなると予想されます。少なくとも病院看護師における引く手あまたの時代は、徐々に終焉を迎えるのではないか」と思われます。

訪問看護への移行が課題

もともと「病院看護」における求人ニーズは減少しても、国内における看護師そのものの不足感は相変わらず続くと見られている。

「病院に勤めている看護師をどうだけ在宅の訪問看護に移動させられるかが、これから大きな課題となるはずです」と森田氏。

医療領域における人材移動の加速。人材サービスにおいてはこのあたりに次なる商機が埋もれていくような気もするが、一方で「病院看護」と「訪問看護」とでは、看護師に求められるスキル、適性の違いも指摘されている。看護師という括りの中だけでの安易なマッチングは、ミスマッチの多発を招く恐れもあり、慎重さが求められよう。

「複数の看護師が一人の患者をみると病院看護と違い、訪問看護では患者一人に対してほぼ一対一での看護が必要になります。

看護師個々の適性という意味では、そうした責任感を大きな重圧を感じるか、それとも大きなや

りがいを感じるか。病院看護から訪問看護という流れの過程では、スキルの違いだけでなく、そのあたりの個人差も、採用においてはこれまで以上に問われるのではないか」といでしょうか。

その意味では看護師のための進路相談、キャリアコンサルティングが必要とされる場面は、これまで以上に増える可能性は高い。「例えば看護師の人材会社であれば、病院看護師などの次のキャリア相談にも乗りつつ、そのための研修サポートにも注力することも増ええると思われます。

高まるキャリア相談ニーズ

「看護師志望者の本気度」

だけで、希望の職場や職務については限らないからだ。

昨年9月、ミライブリッジは看護師志望者を対象とした看護学校選びの口コミサイト「みんかん(みんなの看護学校)」をオープン。「看護師の育成」のための人材サポート業務に注力してきた同社だが、さらに「看護師を目指す人のための情報提供も始めた。

「現時点では自分の志向性に合った学校選びのための情報提供のみですが、キャリア教育の一貫として始めた経緯もあり、今後は本人の看護師志望の本気度を認識してもらうためのキャリア相談もやりたいと思っています」。

そうした看護師志望者を受け入れる大学や専門学校などの看護師ならとりあえず食べていいける「看護」という安易なモチベーションが進み、高い専門性を志向する人が機能分化が進み、より専門性が求められる時代になれば、「看護師ならとりあえず食べていいける」という安易なモチベーションだのは周知の通りだ。

だが、増加する学生数に比して、彼らを育成する「看護教員」の補充、そして高齢化が進む教員の世代交代などの課題も少なくない。次回はそのあたりの現状から引き続きリポートしたい。